

令和6年度 兵庫教育大学附属小学校 学校経営計画

1 めざす学校像等

○ 学校像

先端的な教育環境のもとで、幼稚園、小学校、中学校の12年間を通して、園児・児童・生徒、教職員、保護者が一体となって、地域社会と連携しながら、一人一人の子どもの学びと成長が保障される創造性豊かな学校をめざします。

○ 子ども像

これからの社会において必要とされる情報活用能力を身に付けるとともに、主体的かつ対話的な教育活動を通して、心身ともにたくましく、未来を切り拓いていける知的創造力と寛容性を兼ね備えた、グローバル社会で活躍できる人間を育成します。

○ 教員像

全国の自治体から附属学校園に派遣される教員が、附属学校教員としての自覚をもち、互いに敬意をもって高め合い、学校における働き方改革を踏まえながら、先進的で優れた教育実践に取り組み、地元自治体の中心的な教員として活躍できる資質・能力の向上に努めます。

学校教育目標 ※「教員も児童も成長を実感できる学校」「研究と学校改善が一体となった学校」

「人間として生き抜く力を育てる」 ～夢に向かって挑戦し続ける人の育成～

「学ぶ」ことの大切さ、楽しさを知り、「学び」の本来の意義を理解し、生涯にわたって「学び」続ける力と確かな「人間力」子ども像の実現のために学校として大切にすること

- I 基礎となる学力
- II これを駆使してより深い学習を自ら求めていく探究心（学習力）
- III 豊かな感性
- IV 他者の立場で物事を考える思いやりの精神
- V 多くの人から愛される立ち居振る舞い

学校運営目標 校長として大事にしたい姿勢（教員の取組肯定感が低いことを踏まえ）

「教員も児童も成長を実感できる学校」「研究と学校改善が一体となった学校」

「伝統は革新の連続である」

- ・「人間として生きぬく力を育てる」学級づくり・学校づくりを学ぶ。
学校経営、教科指導、生徒指導、STEAM教育、地域と共にある学校
- ・「子どもが最も大事、子どもに力（測れる力と測れない力）をつける」
- ・「地元に帰ってからでも活躍できる教職員をはぐくむ。」

2 中期的目標（3年間程度）（伝統は革新の連続である）

1 気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり（3年目）

（1）管理職による的確なガバナンスと管理職を含む教職員間の関係づくり

学校運営における様々なルールの明確化と管理職の理念浸透

（2）教職員間が互いに助け合い、多様性を認め、協力して同僚性を高めること。

管理職、ミドルリーダー、学級担任、特定教諭、非常勤講師がそれぞれの責任を果たす体制づくり。校務分掌の不断の改善。積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、1年目の教員も含めて担任団や校務分掌から学校経営計画の実現に向けた改善策や新たな取り組みが、積極的・効果的に提案される学校風土を醸成する。

（3）児童に対する取組みの成果を意識する。

良い授業の結果として、児童の測れる学力の向上をも検証するため年度終わりに行う学力テストや質問紙調査等により検証し、自己の授業や学級経営を振り返り、授業改善やカリキュラム改善の参考とする。

（東京書籍の学力テスト12月及び全国学力学習状況調査の状況の分析検討）

2 大学との共同研究体制の確立

（1）「個別最適化」と「協働的な学び」の実現をめざし、「先進的」な授業改善に取り組む。キュビナドリルの有効活用。

①大学教員の指導を受けて、教科部として授業力の向上を図る。

②大学の協力を得て研究授業及び授業実践交流会の開催。地域の学校との交流の充実。小・中合同研究大会を改善・実施する。

(2) 大学との共同研究の取組の推進

森山教授と永田教授の協力による STEAM 教育と教科に関する研究の取組。インテル STEAMLAB0 を活用した取組。

3 安全・安心な学校づくり

(1) いじめの未然防止、早期の組織対応の徹底。

教科や特別活動、総合的な学習の時間等における様々な取組を通して相手の立場を考え、違いを認め合う児童集団を形成する。

(2) 発達段階に応じた授業規律、生活規律等の検討と統一した指導。

どの学年も新たに赴任した先生と共に統一して指導できる指導ルールの明確化

(3) 長期欠席者の理由の明確化し、適切なアセスメントと対応。児童や保護者への相談・支援体制確立。

(4) 新型コロナウイルス等感染症への適切な対応の徹底と引き続き学校における怪我・事故の減少をめざす。

4 附属学校としての新しい文化の創造

(1) カリキュラムマネジメントの推進

①適切な学校運営や教育課程の実施のための体制を整備し運用する。さらに大学との共同研究による STEAM 教育の研究も含めて、計画的で適切なカリキュラムマネジメントに努める。

②総合的な学習の時間を STEAM 教育に一本化し探究学習の充実に努め、各教科 との関連、転移等を踏まえたカリキュラムを創造する。STEAM 教育を本校の魅力化の柱の一つとする。

③カーニバルの大幅な改革を推進し、カーニバルを仮称スポーツデイ（1 学期）と、特徴的な宿泊行事（2 学期）、仮称うれしのフェスティバル（3 学期）へと再構成する。

(2) 働き方改革の推進

①全国の附属学校の課題である働き方改革の確立。

附属学校におけるミッションビジョンにおいて昨年度働き方改革に努める趣旨が盛り込まれたことを踏まえること。

在校時間の適切な自己管理、時間外勤務の適切な取り扱い、会議の短時間化等の取組を推進する。

時間外の会議の原則禁止と計画的な会議の効率化や休憩時間確保等の改善。

②地元自治体の働き方改革のリーダーとなるタイムマネジメント能力獲得。

③新しい人事交流先との協定締結と計画的な拡大

(3) 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の効果的な運用

コミュニティ・スクールとしてガバナンスを重視し、学校運営の安定性継続性を充実させる。さらに、学ぶ意欲がある「地域の教員の知の拠点」をめざす。附属学校ならではの効果的で意味あるコミュニティ・スクールの取組としての研究を推進する。

(4) 実地教育の改善・充実

大学の重要なカリキュラムで、附属学校の本務である実地教育の一層の DX 化も含めて充実した実地教育をめざす。

5 魅力的な学校づくりの推進のための 5 つの視点

(1) 校種間連携の推進

校種間連携については各自治体の取組には大きな格差があり、カリキュラムの一貫性等一貫教育を推進できる教員は不足しており、その育成は強く求められている。既締結自治体との協定内容の見直しも含めて、幼小中間の人事異動等幼小中の一貫教育の具体的な取組推進とそれができる人材育成をより一層進める。

(2) 新しい特別活動、学校行事の創造。(再掲) 4 (1)

カーニバルの大幅な改革を推進し、コロナ後の新しい学校行事として再構成する。

(3) 知の森・アートの森基金事業の推進

STEAM教育とコミュニティ・スクールとして推進し、図書館の魅力化と地域開放、STEAMラボ等を活用し、児童だけでなく大学生や大学院生も関わった地域貢献の活動を検討する。

(4) 異文化理解教育、国際理解教育の推進

大学グローバル教育センター等との連携により、日常的に留学生との触れあいの機会や異文化理解教育、国際理解教育を推進し、世界で活躍できる土壌を児童期から醸成する。オンラインによる海外の子どもとの交流をもとに、令和 6 年度に児童の外国（フィンランドやオーストラリア等）への短期留学訪問を実施する準備を本格化して進める。さらに教員の海外派遣研修交流を積極的に推進する。

(5) 「教員養成の知の拠点化」推進

地元教育委員会の教科研究会等への参加や兵庫県教育委員会・研修センター、適正な教育団体との連携に努め、本校を実践研修の場としての活用を進めることや、自治体単位で行われている研修や研究会を本校で開催する。その発信を通して、附属学校の存在価値を高め、新任教員、学部卒業生、実地学生、附属学校教員の資質向上に貢献する。(関連4 (3))

3 今年度の重点目標と具体的な教育活動等

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	自己評価と学校関係者評価 達成状況（5段階評価）
1 気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり	(1)大学・管理職による的確なガバナンスによる学校運営 (2)教員やPTAに対する管理職の理念浸透と管理職を含む同僚性の醸成 (3)教員の指導実態と子どもの学力実態の把握と改善	①学則に則った学校運営。 ②理念浸透 保護者向け附小だよりと教職員向け校長通信 ①人事評価制度の適切な活用 ②学校教育目標達成のための取組の推進状況 ③校務分掌の改善。管理職、ミドルリーダー、学級担任、特定教諭、非常勤講師等がそれぞれの責任を果たす体制づくり。 ③アンケートと全学年学力テストを年1回行い、教員がその間の指導状況を自覚する。	①学長及び大学への適切な報告等、学則に沿った計画的な学校運営ができたか。 ②附小だより、校長通信(月1回以上) ①自己申告表作成・面談・評価の適切な実施 ②学校教育目標達成のためにどのような取組を行ったか。 ③「職場アンケート」データの改善 職場内人間関係の肯定的評価の状況、困った時、管理職や主任に相談する状況 ③教科担任制のもと、授業を担当した児童の学力状況 保護者アンケートの結果や児童アンケートで教科が好きな率の向上	
2 大学との共同研究体制の確立	(1)「個別最適化」と「協働的な学び」の実現をめざし、先進的な授業改善に取り組む。 (2)大学との共同研究の取組	①個別最適化の一助として「キュビナドリル」有効活用 ②授業実践交流会、小中合同の研究発表大会の工夫と実施 ①インテル STEAMLABO を活用した取組の拡大 ②森山教授・永田教授と STEAM 教育の小中共同研究を行う。	①キュビナドリルの活用状況。 各学年での定期的・計画的な活用実施 ②大学教員の指導の下、研究授業や・小中合同研究発表大会の実施状況。 ①インテル STEAMLABO を活用した教員数 ②STEAM 研究の広がり と進展拡大。2 年目の取組の評価。	
3 安全・安心な学校づくり	(1)いじめの未然防止、早期対応の徹底 互いを認め合う児童の集団づくり (2)授業規律、生活規律等の検討と統一 (3) 長期欠席者の理由の明確化し、適切なアセスメントと対応。児童や保護者への相談・支援体制確立。 (4) 感染症等に対する学校における対応力向上	①的確な「校内いじめ対策会議」の開催 生徒指導への情報集約 教科や特別活動等様々な取組を通して違いを認め合う集団を形成する。 ①発達段階に応じた授業規律、生活規律等の徹底 ②校内の事故・けがを減少させる。 一人ひとりを大切にする附属学校教育相談室の設置と運用により、児童や保護者の相談・支援体制を確立する。子ども家庭センターや居住地自治体、警察等関係機関とものちに連携する。 ①学校医等との連携による学級閉鎖・学年閉鎖等の的確な判断 ②エビペン研修等学校安全研修の実施、学校安全に関する県事業への参加	①いじめの把握件数 児童、保護者アンケート結果 学校行事等特別活動の取組目標に学級集団づくりの観点を入れる。 ①附属小のルールが徹底できたか。保護者アンケート結果等 ②怪我による保健室来室児童数 ①SC、SSW（主として中学校配置）等との的確な連携状況 ②不登校児童と配慮を要する児童の対応状況の把握、個別の支援計画の作成状況等 ①大学との円滑な連携状況 ②研修の実施状況	
4 附属学校としての新しい文化の創造	(1) カリキュラムマネジメントの推進 (2)働き方改革の推進 (3)学校運営協議会制度の運用 (4)実地教育の改善・充実	①学習指導要領に則った教育課程実施状況の確実な把握。STEAM 教育の取組の位置付けの明確化。 ②今年も研究内容を STEAM 教育に一本化し本校の魅力化の一つの柱とする。 学年主任等ミドルリーダーによる把握と声掛けにより、組織的に推進する。 ①在校時間の適切な自己管理 ②時間外勤務の適切な取り扱い ③時間外会議の原則禁止と会議時間の短時間化等 地域の「教員の知の拠点」をめざす。附属学校ならではの効果的なコミュニティ・スクールを推進する。 ①教育実習総合センターと具体策の検討、さらなる改善策を検討	①標準授業時数等の実施状況 ②森山・永田教授の協力を得て大学との共同研究を推進している STEAM 教育の推進状況 ①時間外勤務手続きの改善状況 時間外勤務時間の縮減状況 ②労働基準法の遵守状況 ③ノー残業デー、ノー会議デーへの積極的な取組 学校運営協議会の定期的な開催。研究大会における公立学校教員の参加状況、学校の地域貢献の状況 ①実地教育学生の実習後のアンケート結果の改善状況「迷っていたがなりたくなった」	

5 魅力的な学校づくりの推進のための5つの視点	(1) 校種間連携の推進	①小中合同研究発表大会の改善 ②幼・小・中合同の学校安全の取組 ③学校園間での教員の人事交流	①小中合同研究発表大会の改善状況 合同教科部会の開催状況 ②学校安全の取組状況 ③人事交流状況 ④幼小中合同共同研究 開催状況等	
	(2) 新しい特別活動、学校行事の創造。(再掲) 4 (1)	①カーニバルの大幅な改革を推進し、カーニバルを仮称スポーツデイ(1学期)と、児童による特徴的な宿泊行事(2学期)、仮称うれしのフェスティバル(3学期)へと再構成する。	①児童・保護者・教員のアンケート結果 ②STEAM教育の推進状況	
	(3) 知の森・アートの森基金事業の推進	STEAM教育とコミュニティ・スクールの活動場所として整備	①図書館の魅力化と地域開放状況 ②中庭整備の進捗状況	
	(4) 異文化理解教育、国際理解教育の推進	留学生との触れあい、オンラインによる外国児童との交流(カンボジア等)児童・生徒の短期留学制度の準備。(フィンランド・オーストラリア等)	①海外からの訪問団や留学生等との交流状況 ②短期留学訪問制度の構築できたか	
	(5) 「教員養成の知の拠点化」推進	①附属学校教員が研修講師となって地域に出かけていく機会や学校を実践研修の場としての活用を進め発信する。(関連4(3))	①研修講師となった人数と回数 ②研修の場となった事例や地域の教員の研修会等の開催状況	
	(6) その他 入試制度の改善 ミドルリーダーが成長する学校づくり	①石倉教授と連携した入試問題改善の取組と就学前施設との連携 ②附属学校園間の望ましい連絡進学 の検討。 ③指導主事や、主幹教諭等で活躍できるミドルリーダーづくり ④自治体指導主事・管理職選考受験推進	①入試問題の改善状況 ②入学準備委員会の運用状況 連絡進学の在り方の検討状況 ③大学院進学希望者の増加と在籍状況 ④主幹教諭の配置状況、指導主事選考の受験状況等	

4 第3者評価の総評

学校経営コースによる